

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIインド・スリランカ・バランス・ファンド（年4回決算型）」は、2020年10月5日に第12期決算を行いました。

当ファンドは、主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、インドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第12期末（2020年10月5日）

基準価額	9,375円
純資産総額	428百万円
第11期～第12期	
騰落率	24.7%
分配金（税込み）合計	0円

(注1) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBIインド・スリランカ・ バランス・ファンド （年4回決算型）

追加型投信／海外／資産複合

交付運用報告書

第6作成期

第11期（決算日2020年7月6日） 第12期（決算日2020年10月5日）

作成対象期間（2020年4月7日～2020年10月5日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiasset.com/jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2020年4月7日～2020年10月5日)



期 首： 7,521円

期 末： 9,375円 (既払分配金 (税込み) : 0円)

騰 落 率： 24.7%

(注1) 当ファンドは主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド (適格機関投資家専用)」への投資を通じて、インドの株式及びスリランカの債券に投資を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

(注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) 分配金再投資基準価額は、作成期首 (2020年4月6日) の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、期初の4月7日に当作成期の最安値となる7,541円を付けた後、各国が導入した財政金融政策等の景気刺激策により世界の株式市場が上昇し、インド株式市場の反発基調が継続する中、上昇基調となりました。5月以降は、都市封鎖 (ロックダウン) の延長を受けてインド市場がやや軟調に推移した一方、3月の市場変動を受けて利回りが大きく上昇していた米ドル建てスリランカ国債を一部組入れたことにより、当ファンドの基準価額は底堅く推移しました。6月以降はインド市場の反発基調に加えて、スリランカ国債利回りの低下 (債券価格は上昇) により、当ファンドの基準価額は堅調推移となりました。7月以降は、新型コロナウイルスのワクチン開発への期待が高まったことに加えて、欧州連合 (EU) 復興基金創設が合意に至ったことが好感され、上昇基調が継続しました。しかし、下旬にかけては、米中関係悪化への警戒感などから、中国などアジア市場を中心に株価が下落する展開となりました。8月以降は、米中対立や世界景気の見通しへの懸念などを受けて下落する展開となったものの、月末にかけては新型コロナウイルスのワクチン開発や米中通商協議の進展に対する期待などから上昇に転じ、8月31日に当作成期の最高値となる9,808円を付けました。9月から期末にかけては、米中対立への警戒感などから下落したものの、米中通商協議における「第1段階」の合意の継続が確認されたことなどから上昇し、その後は一進一退で推移して当作成期末を迎えました。

1万口当たりの費用明細

(2020年4月7日～2020年10月5日)

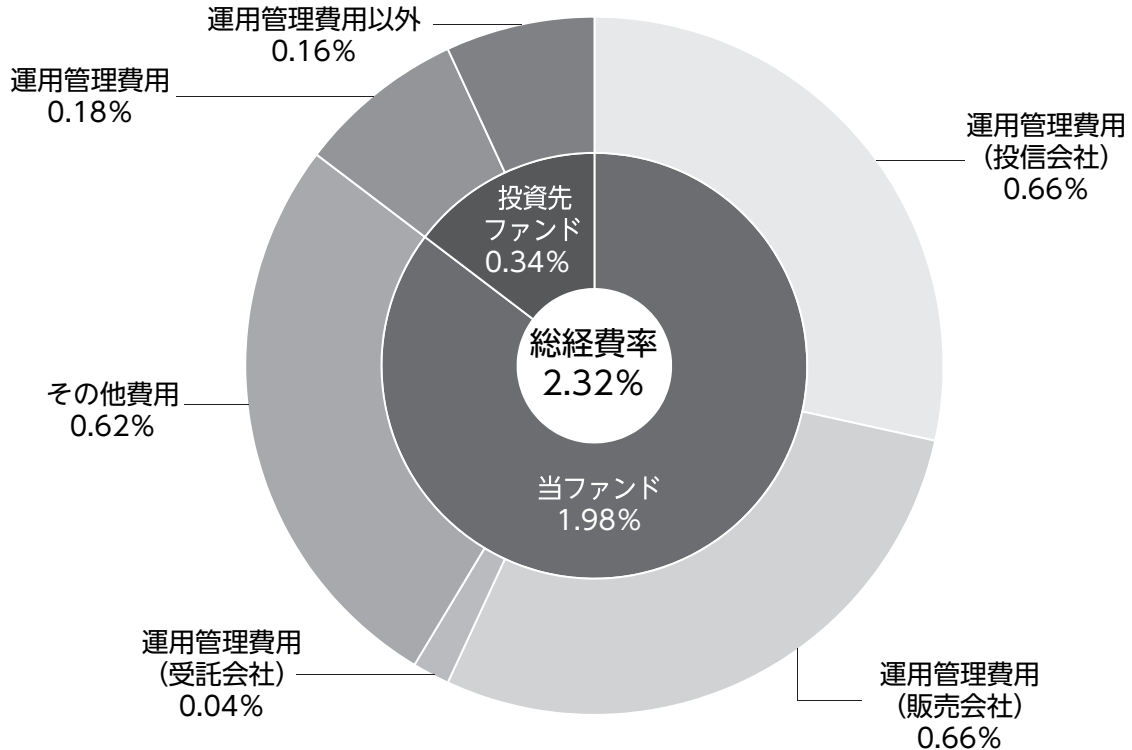
項 目	第11期～第12期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	60 円	0.680 %	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(29)	(0.329)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(29)	(0.329)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.012	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(1)	(0.012)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	1	0.011	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(1)	(0.011)	
(d) そ の 他 費 用	27	0.308	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.034)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(9)	(0.106)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(14)	(0.162)	開示資料等の作成・印刷費用等
(そ の 他)	(1)	(0.006)	インド株式の売買益におけるキャピタルゲイン課税等、信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	89	1.011	
期中の平均基準価額は、8,875円です。			

- (注1) 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。
(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
(注5) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示しております。
(注6) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.32%です。



(単位：%)

総経費率 (①+②+③)	2.32
①当ファンドの費用の比率	1.98
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.18
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.16

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) ②及び③の費用は、各月末の投資先ファンドの保有比率に当該投資先ファンドの運用管理比率を乗じて算出した概算値です。

(注3) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注5) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券です。

(注6) ①と②・③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2015年10月5日～2020年10月5日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算したファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ(2017年10月6日から2020年10月5日)のみの記載となっております。

	2017年10月6日 設定日	2018年10月5日 決算日	2019年10月7日 決算日	2020年10月5日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,180	9,228	9,375
期間分配金合計 (税込み) (円)	-	200	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	-	△6.5	0.5	1.6
純資産総額 (百万円)	700	677	549	428

- (注1) 当ファンドは主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIインド・スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)」への投資を通じて、インドの株式及びスリランカの債券に投資を行うため、ベンチマークはありません。また適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載していません。
 (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注3) 騰落率は1年前の決算日当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2018年10月5日の騰落率は設定当初との比較です。

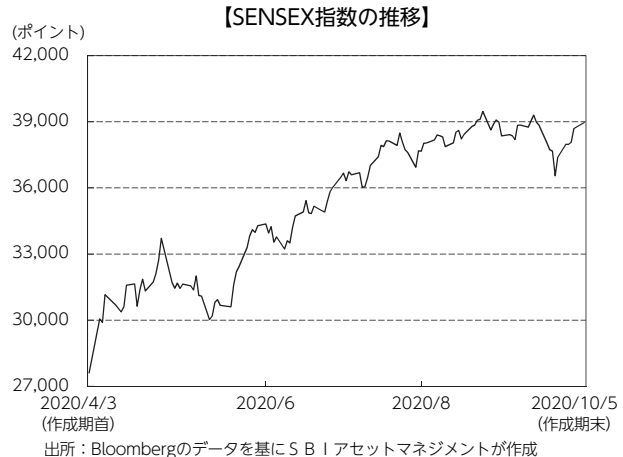
投資環境

(2020年4月7日～2020年10月5日)

<インド>

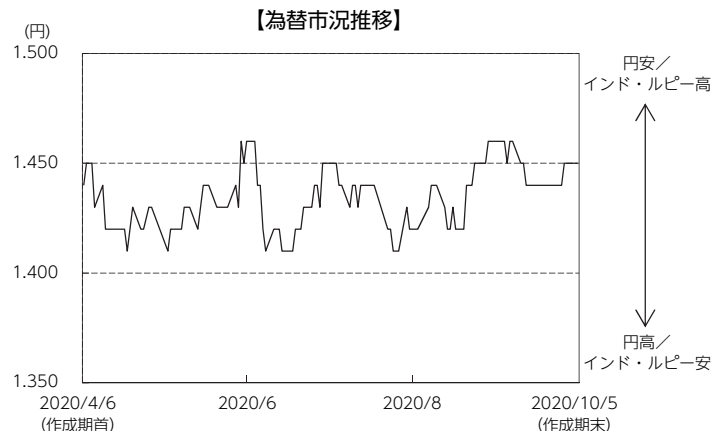
【インド株式市場】

インド株式市場の代表的な指標であるSENSEX指数は、各国が導入した財政金融政策等の景気刺激策により世界の株式市場が上昇する中、4月末にかけて33,000ポイント台を回復するなど反発基調が継続しました。しかし、その後はトランプ米大統領による中国批判や対中追加関税の示唆など、新型コロナウイルスをめぐる米中関係の緊張の高まりに加えて、都市封鎖の延長により、5月下旬にかけて調整しました。6月から7月にかけては、インドにおける経済活動再開への期待から、インド市場は反発基調が継続しました。インド市場は、国内投資家の買いに加えて、海外機関投資家からの資金流入等により、8月末にかけて騰勢を強め、SENSEX指数は一時39,000ポイント台まで急騰しました。9月以降、期末にかけては、米中对立への警戒感などから一時下落したものの、米中通商協議における「第1段階」の合意の継続が確認されたことなどから上昇し、SENSEX指数は再び38,000ポイント台後半まで戻して当作成期末を迎えました。



【為替市況】

当作成期のインド・ルピーの対円レートは、1インド・ルピー=1.45円付近で推移したものの、米中对立の激化懸念や新型コロナウイルスの感染第2波への懸念等により、一時的にドル高・円高が進行し、一時1インド・ルピー=1.4円前半の水準まで下落する局面もありました。当作成期末にかけては、やや持ち直し、1インド・ルピー=1.45円近辺へ上昇しました。



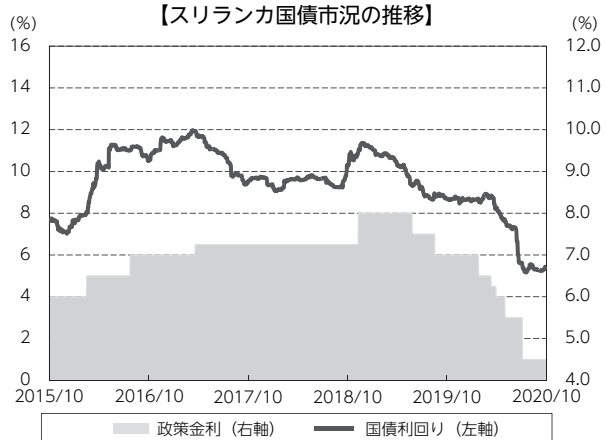
<スリランカ>

※以下のコメントの内容は、S B I ボンド・インベストメント・マネジメント株式会社からのコメントを基に S B I アセットマネジメントが編集したものです。

【スリランカ国債市況】

当作成期は、スリランカ短期国債利回りが低下（債券価格は上昇）しました。

スリランカ中央銀行は2020年7月の会議で、1%幅の政策金利引き下げを実施しました。また、8月のスリランカ議会選では、ゴタバヤ・ラジャパクサ大統領の支持勢力が過半数を得て圧勝しました。同国債市場においては、上記がプラス材料となり、投資家の買いを集め、利回りが低下しました。

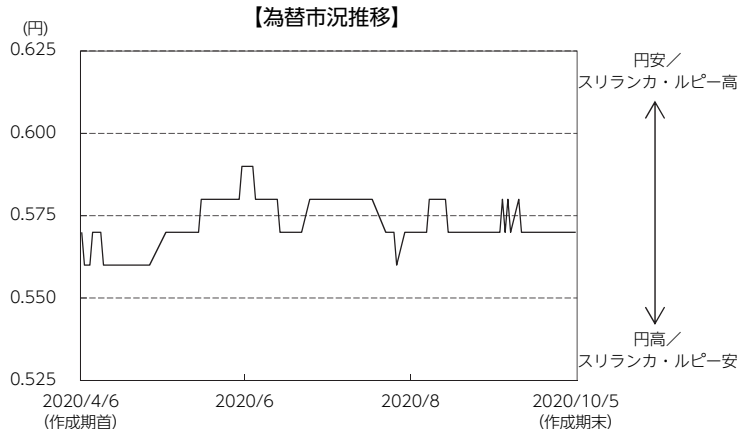


出所：Bloomberg のデータを基に S B I アセットマネジメントが作成
 ※政策金利はスタンディング・ファシリティーの預入金利 (S D F R) を使用しています。
 ※国債利回りは 2 年国債利回りを使用しています。
 ※データ期間 (2015 年 10 月 5 日～2020 年 10 月 5 日)

【為替市況】

当作成期は、スリランカ・ルピーは円に対して、レンジ内で横ばいの動きとなりました。

外国為替市場では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて3月に大幅に下落したスリランカ・ルピーが、米ドルに対して上昇する展開となりました。一方で、円も米ドルに対して上昇したことから、スリランカ・ルピー／円は概ね横ばいで推移しました。



※ 為替レートは、一般社団法人投資信託協会が発表する対顧客電信売買相場仲値を採用しています。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年4月7日～2020年10月5日)

<当ファンド>

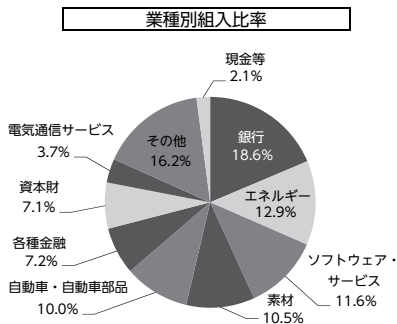
主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBI債券スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、インドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

また、基本投資割合をインド株式60%、スリランカ債券40%とし、市況環境、資金動向に応じて機動的に変更を行いつつ運用いたしました。

<ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

なお、直近9月末時点におけるポートフォリオについては以下の通りとなっております。



組入上位銘柄

	銘柄名	業種	比率
1	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	11.2%
2	インフォシス	ソフトウェア・サービス	7.3
3	ICICI銀行	銀行	6.3
4	タタ・コンサルタンシー・サービス	ソフトウェア・サービス	4.3
5	アクシス銀行	銀行	3.9
組入銘柄数		51銘柄	

※組入比率はいずれもマザーファンドの純資産総額比です。
 ※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

<SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）>

スリランカの短期国債等（国債、政府保証債、政府機関債）及び国際機関債を主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いました。

なお、直近9月末時点におけるポートフォリオについては以下の通りとなっております。

保有債券の属性情報

平均残存期間（年）	0.8
平均修正デュレーション（年）	0.7
平均クーポン（%）	6.25
平均直接利回り（%）	7.15
平均最終利回り（%）	24.80
平均格付け	B

※保有債券の時価評価額を基に加重平均し計算しています。

※格付はS&P、ムーディーズ、フィッチの高いものを使用しています。

保有債券の通貨別構成比

スリランカ・ルピー	0.0%
米ドル	100.0%
円	0.0%

※上表については、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社からの資料を基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年4月7日～2020年10月5日）

当ファンドは主としてSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドに運用を再委託する「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及びSBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社が実質的な運用を行う「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、インドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行うため、ベンチマークはありません。また、適当な参考指数もないことから、参考指数等も記載しておりません。

分配金

（2020年4月7日～2020年10月5日）

当作成期の分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案し、下表の通りといたしました。

なお、分配にあてずに信託財産内に留保した収益につきましては、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第11期	第12期
	2020年4月7日～ 2020年7月6日	2020年7月7日～ 2020年10月5日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%	— —%
当期の収益	—	—
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	903	976

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入で算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き、「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、実質的にインドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。

<ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドは、以下のよう
にコメントしています。

インドではロックダウンが緩和されたとは言え、経済活動の大部分が危険区域に入っていることを踏まえると、ソーシャル・ディスタンス（社会的距離の確保）により工場生産における増産には長い時間を要し、労働力の活用に大きな課題を抱える中で政府の積極的な支援余地は限られ、全体的には企業による設備投資の伸びが弱含むことから、景気回復は緩慢になる可能性が高いでしょう。一方、大規模な金融政策による下支えに加えて、地方経済を守るための農業収入の保証といった政策措置は、景気回復にプラスの作用をもたらすとみられています。

強固なバランス・シート、健全なコスト・コントロールや減税政策は、中期的にはインド企業の収益回復にとって幸先の良いものとなっています。インドの法人セクターは、中期的なインフレ上昇に向けて、資本増強により財務健全性を回復することになりそうです。インド株式市場は過去10年の期間で国債の収益率を下回りましたが、インド企業の収益性が過去数十年間にわたって徐々に低下したため、株式のバリュエーションは未だに割高な状況です。今後10年間にわたって株式が選好されるように潮目を変えるには、適切な政策の立案と遂行を背景とした持続的な経済の拡大が極めて重要になります。引き続きボトムアップ・アプローチにより、現在のような危機的状況においても力強く浮上する回復力のあるビジネスに焦点を当てて銘柄選定を続けることが、収益機会を得る最良の方法だと我々は考えています。

<SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）>

当該投資信託を運用している、SBIボンド・インベストメント・マネジメント株式会社は、以下の
ようにコメントをしています。

中央銀行による積極的な利下げに伴い、スリランカ・ルピー建ての短期国債利回りが大幅に低下しました。一方で、米ドル建ての短期国債の利回りは、コロナショックや格下げ等の影響から上昇しました。当ファンドの運用におきましては、スリランカ・ルピー建ての短期国債から、米ドル建ての短期国債へ入れ替えを行いました。

9月中旬、スリランカの財務大臣が、①国際通貨基金（IMF）の支援を受けなくても問題はなく、②2020年10月4日償還のドル建てスリランカ国債は償還される、③借り換え債の発行は来年度予算を公表する11月以降の予定と発言しました。市場では同国がIMFから距離を取り始めたものと受け止めたことから、ドル建てスリランカ国債の価格が変動しましたが、スリランカ財務大臣はその後会見し、インドと10億ドルの追加スワップ契約を準備していること、外貨準備を増やす手段として円建てサムライ債、人民元建てパンダ債、中国からのシンジケートローンの選択肢もあることを話しています。

こうした環境下における当ファンドのパフォーマンスは、短期的には米ドル建て短期国債市場での需給要因等による価格変動の影響を受けるものの、長期的には相対的に高いインカム収益の積み上げがプラスへ寄与するものと考えています。

お知らせ

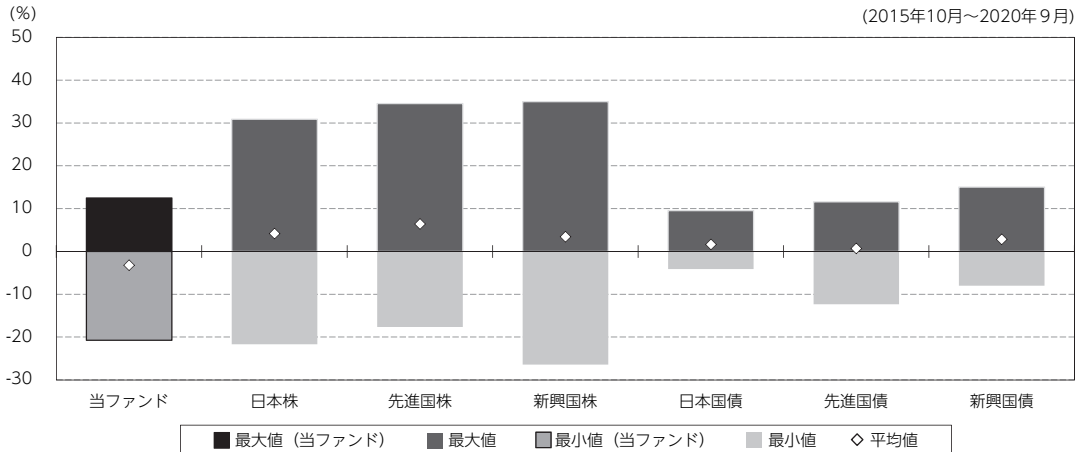
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	無期限（設定日：2017年10月6日）
運用方針	この投資信託は、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」を主要投資対象とします。投資対象とする債券は国債、政府保証債、政府機関債、国際機関債等とします。 なお、今後の発展が見込まれる南アジア諸国の株式及び債券に投資する場合があります。
運用方法	主として「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド」及び「SBIボンド スリランカ短期国債ファンド（適格機関投資家専用）」への投資を通じて、インドの株式及びスリランカの債券に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。 また、原則として、インド株式60%、スリランカ債券40%を基本投資割合とし、市況環境、資金動向に応じて±10%の幅で機動的に変更するものとします。
分配方針	年4回（原則として1月、4月、7月、10月の各5日。休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づき収益の分配を行います。分配対象額は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）及び売買益（評価益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	12.5	30.9	34.5	35.0	9.5	11.6	15.0
最小値	△ 20.7	△ 21.7	△ 17.6	△ 26.4	△ 4.1	△ 12.3	△ 8.0
平均値	△ 3.2	4.2	6.4	3.4	1.6	0.7	2.8

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2015年10月から2020年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、2017年10月6日(設定日)から2020年9月30日のデータを基に算出しております。したがって、代表的な資産クラスとの比較対象期間が異なります。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注5) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《代表的な各資産クラスの指数》

- 日本株…Morningstar 日本株式指数
- 先進国株…Morningstar 先進国株式指数 (除く日本)
- 新興国株…Morningstar 新興国株式指数
- 日本国債…Morningstar 日本国債指数
- 先進国債…Morningstar グローバル国債指数 (除く日本)
- 新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、P15の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2020年10月5日現在）

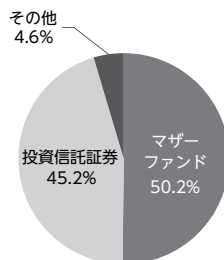
○組入上位ファンド

銘柄名	第12期末
	%
ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド	50.2
SBIボンド スリランカ短期国債ファンド(適格機関投資家専用)	45.2
組入銘柄数	2銘柄

（注1）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

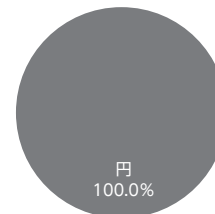
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注1）資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

（注2）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

項目	第11期末	第12期末
	2020年7月6日	2020年10月5日
純資産総額	426,684,574円	428,498,167円
受益権総口数	472,029,111口	457,071,866口
1万口当たり基準価額	9,039円	9,375円

（注）作成期中における追加設定元本額は11,536,431円、同解約元本額は29,143,145円です。

組入上位ファンドの概要

ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド (適格機関投資家専用)

【基準価額の推移】

(2019年6月5日～2020年6月4日)



【1万口当たりの費用明細】

(2019年6月5日～2020年6月4日)

項目	当 期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	11円 (11)	0.069% (0.069)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	9 (9)	0.059 (0.059)
(c) その他費用 (保 管 費 用) (そ の 他)	28 (25) (3)	0.182 (0.161) (0.021)
合 計	48	0.310

平均基準価額は、15,487円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2020年6月4日現在)

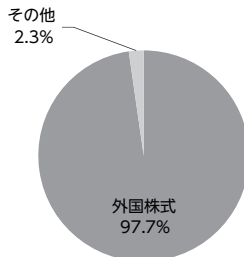
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インド・ルピー	インド	8.9
2	ICICI銀行	銀行	インド・ルピー	インド	7.2
3	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インド・ルピー	インド	5.8
4	プハルティ・エアテル	電気通信サービス	インド・ルピー	インド	5.3
5	コルゲート・パルモリーブ	家庭用品・パーソナル用品	インド・ルピー	インド	5.1
6	アクシス銀行	銀行	インド・ルピー	インド	4.4
7	タタ・コンサルタンシー・サービスズ	ソフトウェア・サービス	インド・ルピー	インド	4.1
8	マルチ・スズキ・インディア	自動車・自動車部品	インド・ルピー	インド	3.5
9	HDFC	銀行	インド・ルピー	インド	3.5
10	インドステイト銀行	銀行	インド・ルピー	インド	2.7
	組入銘柄数			49銘柄	

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

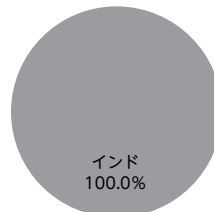
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

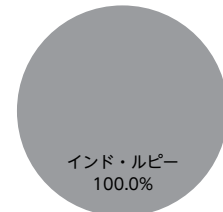
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2020年6月4日現在のものです。

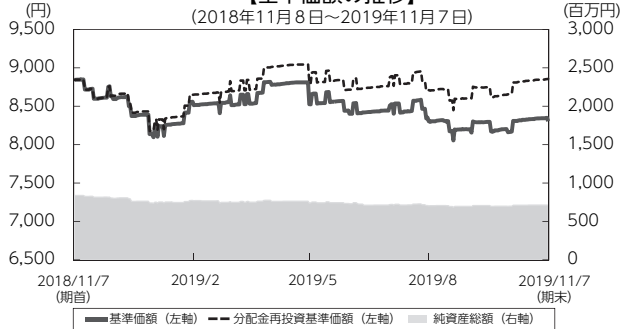
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

SBI債券 スリランカ短期国債ファンド (適格機関投資家専用)

以下は当該ファンドを運用するSBI債券・インベストメント・マネジメント株式会社からのデータを基に、SBIアセットマネジメントが作成しています。

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2018年11月8日～2019年11月7日)

入手可能な費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2018年11月7日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

【組入上位10銘柄】

(2019年11月7日現在)

	銘柄名	国(地域)	比率
1	SRILGB 9.45% 2021/10/15	スリランカ	51.3%
2	SRILGB 11% 2021/8/1	スリランカ	39.3%
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
組入銘柄数		2銘柄	

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

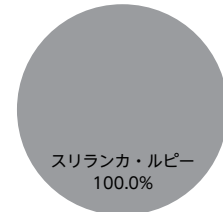
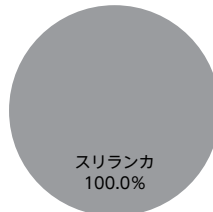
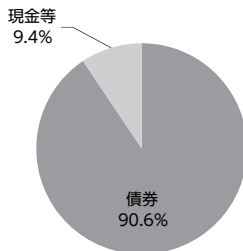
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】

【国別配分】

【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2019年11月7日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

〈各指数の概要〉

- 日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- 先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- 新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- 日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- 先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含む Morningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。